



本冊子は、2019年度版となりますので、
ご注意ください。

お問い合わせ：国際地域創造学部 学務係
Phone: 098-895-8184 / Fax: 098-895-8187
2019.04.01



国際地域創造学部
Faculty of Global and Regional Studies

琉球大学

知 の か け 算

複眼的思考への誘い

インターネットが張り巡らされている現代社会においては、それまでは関わりがないと考えられていた物事も、思いもよらないことがきっかけとなって、つながってしまう可能性があります。

学問の世界も同じです。例えば、「外/内」など、物事を二分化する考え方にも変化が求められるようになりました。それまでは切り離されていた異なるものを融合させ、その化学反応から次世代を切り開く新しい知が生まれることが期待されているのです。

このような時代の変化に対応するため、琉球大学では、2018年度（平成30年度）から、法文学部の4専攻、そして観光産業科学部の2学科の組織を再編して「国際地域創造学部」とし、未来志向型の新たな教育カリキュラムをスタートさせる準備を進めています。

私たちの考える「未来志向型の教育」とは、地域性と国際性を合わせた複眼的思考によって、「地域振興」、「産業振興」、「文化振興」に貢献できる人材の育成をめざす教育です。そのカリキュラムの最大の特徴は、入学から専門教育（プログラム）に入るまでの期間（昼間主では3学期間、夜間主では2学期間）、「観光学」、「経営学」、「経済学」、「語学」、「地理学」、「歴史学」、「人類学」といった分野から横断的に学ぶことができるしくみになっているという点です。多様な専門分野は、これまで個別に発展してきました。しかし、これからの時代は、多様な専門分野の融合を図り、より幅広い視野から問題解決に取り組む能力が求められます。学問的知見にもとづく論理的思考と、それを応用できる実践力を培う「国際地域創造学部」の教育カリキュラムは、学生の視野を広げ、自律的な問題意識の形成を促し、問題解決力を向上させることを主眼としています。

また、専門教育課程でどの履修プログラムに進むかが決定した後でも、意欲があれば、異なる分野の専門知識に触れることも可能です。同じ学部の異なる専門知識を持つ学生との積極的な知的交流から、将来につながる人的ネットワークを築くこともできるでしょう。このように新学部では「知のかけ算」ができるよう、様々な工夫が構想されています。



入学定員：

観光産業科学部

- ・観光科学科 60
- ・産業経営学科 昼 60 / 夜 20

法文学部

- ・経済学専攻 昼 65 / 夜 30
- ・英語文化専攻 昼 36 / 夜 30
- ・ヨーロッパ文化専攻 12
- ・地理歴史人類学専攻 32

国際地域創造学部

- ・観光地域デザインプログラム 昼 60 学士（観光学）
- ・経営プログラム 昼 60 学士（経営学）
- ・経済学プログラム 昼 65 学士（経済学）
- ・国際言語文化プログラム 昼 48 学士（人文学）
- ・地域文化科学プログラム 昼 32 学士（人文学）

- ・経営プログラム 夜 20 学士（経営学）
- ・経済学プログラム 夜 30 学士（経済学）
- ・国際言語文化プログラム 夜 30 学士（人文学）

（※上記の数字は各プログラムに配属する人数の目安です。）

国際地域創造学部の育成する人材像

グローバルとローカルを併せ持つ視野によって、地域社会における現代的課題の解決や国内外の産業・文化の振興に寄与できる人材を育成する。

産業振興

- ・リーディング産業（観光、情報通信、金融など）を担う実践力のある人材。
- ・幅広い知識とマネジメント能力を有し、新たな産業を創出できる人材。

地域振興

- ・幅広い知識を持ち、地域の課題解決に貢献できる人材。
- ・地域の多様な人的ネットワークと連携できる人材。

文化振興

- ・文化や価値観の多様性を理解し、グローバルな視点から文化の保全、継承、創造、発展に貢献できる人材。

アドミッション・ポリシー Admission Policy

- 地域の文化・社会について多様な学問的見地から興味を持ち、主体性をもって課題に取り組み、そしてより良い課題解決のために様々な立場の人々と意見を交換しつつ実行することができる人。
- 現代の地域・国際社会をめぐる多様な課題に対して関心を持ち、自らの感性と経験をとおして他者や社会へと関わり、得られた知見を社会全般に還元する態度を備えている人。
- 21 世紀型市民として必要な学際的教養を身につける意欲を持ち、他者や異文化の持つ多様な価値観に対して柔軟な態度を身につけている人。

教職課程を開設するプログラムと取得できる教員免許の種類

- 国際言語文化プログラム（昼・夜）：「中学英語」、「高校英語」
- 経済学プログラム（昼）：「中学社会」
- 地域文化科学プログラム：「中学社会」、「高校地歴」

入試方法 Examinations for Admission

昼間主 265 名

一般入試（前期日程）

- 大学入試センター試験（6教科6科目もしくは6教科7科目、または5教科6科目もしくは5教科7科目）
- 個別学力試験：
 - 国際的思考系**：英語（英語運用能力と国際的課題をめぐる思考力を問う問題）
 - 論理的思考系**：小論文（論理的思考を測る小論文問題）
 - 数学的思考系**：数学（数学的思考力を測る数学の問題）

一般入試（後期日程）

- 大学入試センター試験（6教科6科目もしくは6教科7科目、または5教科6科目もしくは5教科7科目）
- 個別学力試験：
 - 国際的思考系**：小論文（英語資料読解による小論文問題）
 - 論理的思考系**：小論文（論理的思考を測る小論文問題）

推薦入試 I

- 小論文、面接及び提出書類（調査書等）と合わせて総合的に判断して選考します。

夜間主 80 名

一般入試（前期日程）

- 大学入試センター試験（6教科6科目又は6教科7科目）
- 個別学力試験：
 - 国際的思考系**：英語（英語運用能力と国際的課題をめぐる思考力を問う問題）
 - 論理的思考系**：小論文（論理的思考を測る小論文問題）

一般入試（後期日程）

- 大学入試センター試験（4教科4科目）
- 個別学力試験：
 - 国際的思考系**：小論文（英語資料読解による小論文）
 - 論理的思考系**：小論文（論理的思考を測る小論文問題）

推薦入試 I

- 小論文、面接及び提出書類（調査書等）と合わせて総合的に判断して選考します。

社会人特別入試

- 小論文、面接及び提出書類（調査書等）と合わせて総合的に判断して選考します。

上記のほか、帰国子女特別入試、私費外国人留学生入試及び3年次編入学試験を実施する予定。

大学入試センター試験の利用教科・科目の選択パターン一覧

| 教科 | 科目 | 昼間主 前期・後期日程 | | | | 夜間主後期日程 |
|-----|---------|-------------|--------|--------|--------|--------------------------------|
| | | 夜間主 前期日程 | | | | |
| | | 6教科6科目 | 6教科7科目 | 5教科6科目 | 5教科7科目 | |
| 国語 | 国語 | 選択 | 選択 | 選択 | 選択 | 選択 |
| 地歴 | 世界史B | 1科目選択 | 1科目選択 | 2科目選択 | 2科目選択 | (注) 同一教科から2科目を選択することはできません。 |
| | 日本史B | | | | | |
| | 地理B | | | | | |
| 公民 | 現代社会 | 1科目選択 | 1科目選択 | × | × | |
| | 倫理 | | | | | |
| | 政治経済 | | | | | |
| | 倫理・政経 | | | | | |
| 数学 | 数Ⅰ・数A | 1科目選択 | 1科目選択 | 1科目選択 | 1科目選択 | |
| | 数Ⅱ・数B | | | | | |
| | 簿記・会計* | | | | | |
| | 情報関係基礎* | | | | | |
| 理科 | 物理基礎 | × | 2科目選択 | × | 2科目選択 | |
| | 化学基礎 | | | | | |
| | 生物基礎 | | | | | |
| | 地学基礎 | | | | | |
| | 物理 | 1科目選択 | × | 1科目選択 | × | |
| | 化学 | | | | | |
| | 生物 | | | | | |
| 地学 | | | | | | |
| 外国語 | 英 | 1科目選択 | 1科目選択 | 1科目選択 | 1科目選択 | |
| | 独 | | | | | |
| | 仏 | | | | | |
| | 中 | | | | | |
| | 韓 | | | | | |

*数学教科の「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択解答できるのは、高等学校でこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了（見込み）の者に限る。

知的創造力と実践力を高めるカリキュラム

Develop Your Skills, Knowledge, and Creativity

昼間主 [1年次から2年次前期まで]

各プログラムに共通する基礎科目を通して、国際社会および地域社会の課題について幅広く学び、視野を広げます。語学力や学問の方法など、将来進みたい専門分野を選択する際に必要となる基礎的知識や技術を高める時期です。

夜間主 [1年次まで]

昼間主 [2年次後期]

それまでに培ってきた知識や技術、興味や関心にもとづいて、専門分野を決定します。自らが選択した分野における専門科目の履修を通して、解決すべき課題を発見し、それに対する理解を深め、自らの答えを模索しながら、思考力と実践力をさらに磨きます。

夜間主 [2年次前期]

昼間主 [3・4年次]

強固な基礎力にもとづいた専門性や技術と、異分野を俯瞰できる柔軟で幅広い知識によって、最終的には地域や国際社会が直面する課題の解決に挑戦します。

夜間主 [3・4年次]



※夜間主コースの専門プログラムは、「経営プログラム」、「経済学プログラム」と「国際言語文化プログラム」の3つとなります。

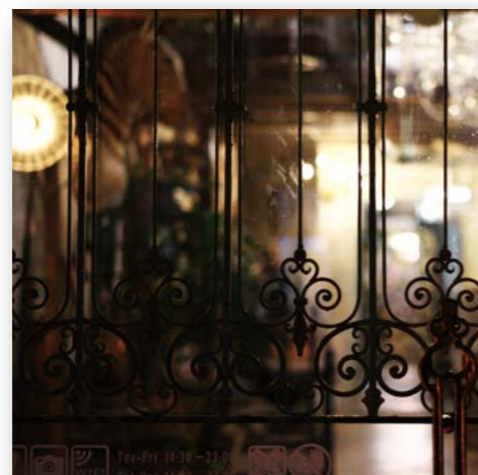
5つの履修プログラム Programs of Study

●新学部の再編により、各プログラムで開講される専門科目の変動はありますが、学べる専門領域の内容は旧学部から継承されています。



観光地域デザイン (昼) Tourism Sciences

観光地域デザインプログラムでは、地域社会が抱える課題を的確に把握・分析する能力と、観光にかかわるマネジメントの問題解決を行う能力の習得を図ります。こうした多様な能力を活かして、観光を通じた地域振興や産業振興にリーダーシップを発揮できる人材を育成します。「持続可能な観光」の考え方を基本に、多彩な専門科目と海外研修を含む実践型教育を通じて学生の国際感覚を養います。



経営 (昼・夜) Management

経営プログラムでは、経営学、マーケティング、会計学という3つの専門分野を中心に学習し、そこで得られた経営の専門的知識をベースに、産業振興および地域振興に貢献できる実践的かつ創造的な思考を有する人材の育成を目指します。また、公認会計士、税理士、中小企業診断士など高難度の資格取得に向けたきめ細かい教育も行います。



経済学 (昼・夜) Economics

経済学プログラムでは、経済学の基礎～応用からデータリテラシーを含めた実践までを一貫したカリキュラムとして提供します。この体系的学習を通じ、産業振興や地方創生などに向けた、多様な現実の課題に対して合理的な改善・解決を図るための経済学的思考力を養います。国や自治体、金融機関、民間企業など多くの現場で活躍できる専門性と実践力を兼ね備えた人材の育成によって地域や産業の振興に貢献します。



国際言語文化 (昼・夜) Global Languages and Cultures

国際言語文化プログラムには、イギリスやアメリカの言語・文学・文化を学ぶ英語文化履修コースと、ドイツ・フランス・スペインとスペイン語圏(中南米)の言語・文学・文化について専門的に学ぶことができるヨーロッパ文化履修コース、外国人留学生を対象とする日本・国際事情履修コースがあります。グローバル化に伴う国際および地域社会の要請に適切に対応できる外国語運用能力、異文化理解力、国際感覚を養います。英語教員(中学・高校)はもとより、語学力が必要とされる多様な分野で活躍できる人材を育成します。



地域文化科学 (昼) Geography, History, and Anthropology

地域文化科学プログラムは、地理学、歴史学、人類学という3つの学術分野から構成されています。フィールドワークや史料読解などの実践的な学びを通して、多角的な視点から文化を理解できる力や、自律的に課題を解決できる力を身につけます。教員免許(中学校社会科・高等学校地理歴史科)や博物館学芸員など、専門性を活かした各種資格の取得が可能であることも大きな特色です。

観光地域デザインプログラム

Tourism Sciences Program

本プログラムは、グローバル化時代を見据え、持続可能な開発に資する人材、高い学士力を身につけ、現代社会で創造的に活躍できる人材を育成することを目的とします。

観光地域デザインプログラムとは、観光ビジネス、観光政策、自然・文化資源のマネジメント、地域開発など様々な領域から学際的に「観光」「地域」「観光と地域の関係」、あるいはそれらの成り立ちや振興を考える学問領域です。本プログラムでは、サステナブルツーリズム（持続可能観光）のコンセプトを基盤に、「ツーリズム・ビジネス」「ツーリズム・デベロップメント」「ツーリズム・リソースマネジメント」の3つの領域を中心に、文理融合型の学際的アプローチによって、観光と地域に関して探求を深めてゆきます。

2年次後期から始まる本コース独自のプログラムにおいては、コミュニケーション能力を高めるために英語運用能力と情報処理能力の向上を重視した科目を提供します。同時に、観光や地域デザインに関する専門科目を提供します。併せてインターンシップ等をキャリア開発のための科目及び、より高度な観光と地域デザインに関する専門科目を提供し、問題解決を行う能力の習得を図ります。

〔観光地域デザインプログラムの教育特徴〕

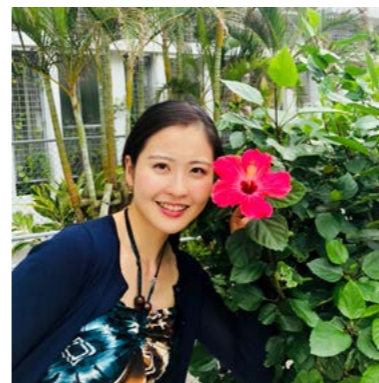
- 持続可能な観光（サステナブルツーリズム）のコンセプトを基盤としています。
- 観光産業のグローバル化に対応し、実践型教育のみならず外国語、特に英語教育を重視しています。例えば、ハワイなどの連携大学による遠隔講義などを提供します。
- 文理融合型の学際的アプローチを採用し、総合大学である琉球大学がもつ資源を最大限に活用し、学問の垣根を越えた教育を提供します。
- 毎年、学生を対象にハワイ等の海外観光地において研修プログラムを実施し、当地の観光と歴史、文化等を学ぶ機会を設けています。

越智正樹

観光社会学／農村社会学／地域社会学・教授



観光には五感のすべてが関係しますが、中でも重要なのが「観る」ことです。ですから観光を創ろうとする人は、まずもって自分自身が物事をさまざまな角度から「観る」ことができなければなりません。「観光社会学」は、観光資源の生滅について、「人と人との相互関係の仕組み」との関連から「観る」分野です。この分野では“資源は自然に生まれてどこかに隠されている”とは考えません。地域の物事に対し、誰かが特定の目的で活用しようと継続的に働きかけたとき、初めてその物事が資源として生まれ変わるのです。但し当然、同じ物事を別の目的で活用しようとする人もあらわれます。また、働きかけが継続しなければ、資源は再びただの物事に戻ります。そのため、観光資源の創生と持続を考えるなら、それに対する人々の働きかけの調整のあり方（人と人との相互関係の仕組み）から「観る」ことが不可欠なのです。このように根本から「観る」力を養えば将来、多様な領域で活躍できるでしょう。



滝田 まなさん（観光産業科学部 観光科学科3年生）

観光政策研究室に所属し「住んでよし・訪れてよし・受け入れてよし」の観光地づくりに寄与できる人材を志しております。最大の観光資源は「人」であり、観光産業は住んでいる人・訪れる人双方に幸せをもたらす平和産業であると学びました。裾野が広い観光産業を多角的に、また、観光関連企業の皆さまからもアドバイスを頂戴しながら沖縄のブランディング力向上のため、日々探究を重ねております。

教員紹介

荒川 雅志 Masashi ARAKAWA 社会医学 / ヘルスツーリズム 教授

飯島 祥二 Shoji IJIMA 建築環境工学 / 環境心理学 / 持続可能観光論 教授

松本 晶子 Akiko MATSUMOTO 保全生態学 / 生物人類学 教授

下地 芳郎 Yoshiro SHIMOJI 観光政策論 教授

金城 盛彦 Morihiko KINJYO 観光経済学 教授

平野 典男 Norio HIRANO 観光産業論 / 会計情報論 教授

波多野 想 Sou HATANO 文化的景観研究 / 観光景観学 / 文化遺産学 教授

越智 正樹 Masaki OCHI 観光社会学 / 農村社会学 / 地域社会学 教授

大島 順子 Junko OSHIMA 地域・環境教育論 准教授

片岡 英尋 Hidehiro KATAOKA 観光経営学 准教授

屋宜 智恵美 Chiemi YAGI 観光学 准教授

経営プログラム

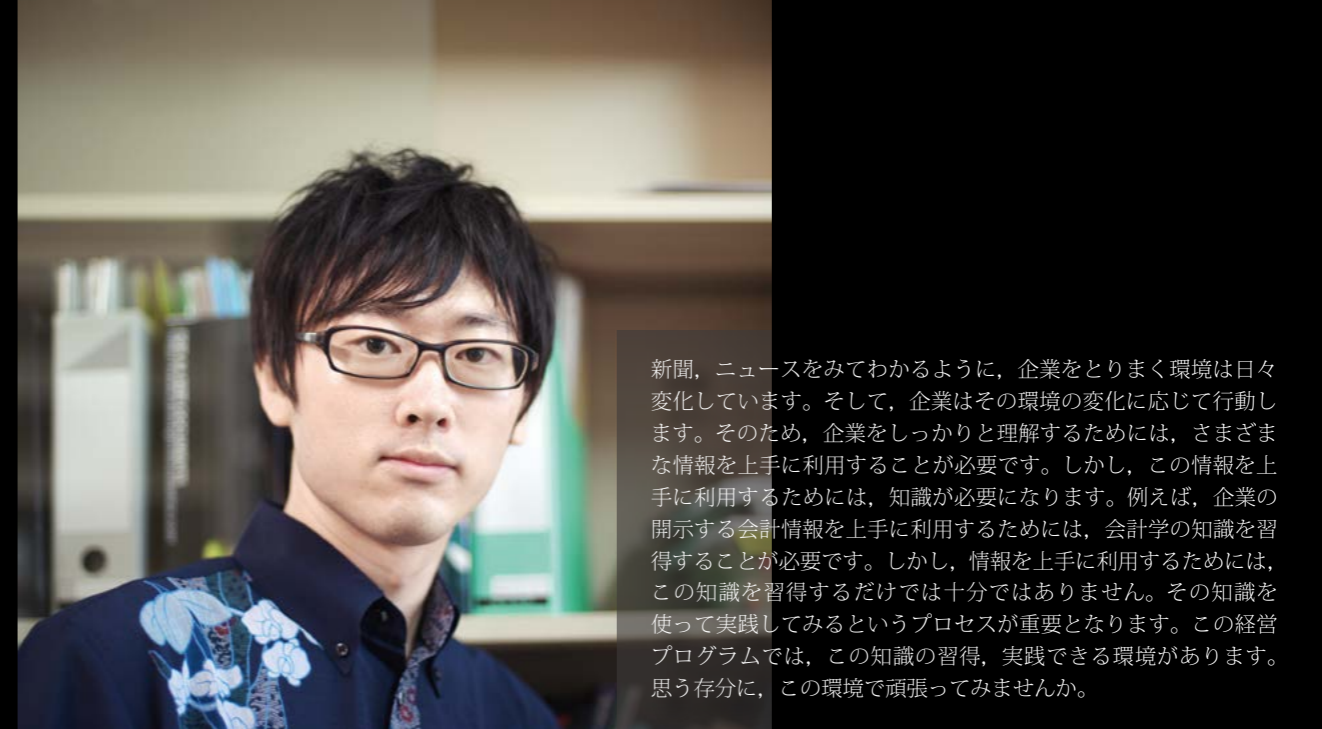
Management Program

「経営」という言葉について、それは会社の社長さんや部長さんの仕事で自分とは関係ないと皆さんは思っていませんか？確かに「経営」は会社という大きな組織を仕切る仕事を指す場合が多いかもしれませんが、「経営」という言葉の意味はとてもシンプルです。それは、「目的を達成するために、継続的計画的に意思決定を行い、実行に移す（大辞泉）」ということです。この意味に従えば、「経営」という言葉の距離がかなり近くなったのではないのでしょうか？たとえば、自分の所属するサークルやクラブを強くしたり、周りの人々に注目されたりするのも経営です。あるいは、将来になりたい自分がいて、それに目指して今からどのような筋道をとればその目標に辿り着けるかを考えるのも経営です。

「経営」の出発点として、まずは目指すべく魅力的な目標設定が必要となります。その目標の魅力は簡単に言えば、よそにない自分だけが享受できるメリットのことです。そして、現状からその目標に向かって進むとき、行動に移すためのエネルギーが欠かせません。そのエネルギーとは、自分のやる気、能力、人脈、使える道具や資材、資金、知識・ノウハウなどです。さらに、突き進むエネルギーを無駄なく運用することも求められます。

「経営プログラム」の教育内容はこれらのことに対応するために設計されています。具体的に用意されている専門領域は「経営学」、「マーケティング論」、そして「会計学」の3つです。理想的な自分になりたい人、あるいは将来自ら起業したい人や経営の専門知識を生かして誰かのために役に立ちたい人、また会社という大きな組織で活躍したい人、そうした人たちは是非「経営プログラム」を目指して頑張ってみませんか。

会計学・講師
石川 徹



新聞、ニュースをみてわかるように、企業をとりまく環境は日々変化しています。そして、企業はその環境の変化に応じて行動します。そのため、企業をしっかりと理解するためには、さまざまな情報を上手に利用する必要があります。しかし、この情報を上手に利用するためには、知識が必要になります。例えば、企業の開示する会計情報を上手に利用するためには、会計学の知識を習得することが必要です。しかし、情報を上手に利用するためには、この知識を習得するだけでは十分ではありません。その知識を使って実践してみるというプロセスが重要となります。この経営プログラムでは、この知識の習得、実践できる環境があります。思う存分に、この環境で頑張ってみませんか。

教員紹介

牛窪 潔 Kiyoshi USHIKUBO 中小企業経営論 教授

與那原 建 Tatsuru YONAHARA 経営戦略論 教授

大角 玉樹 Tamaki OSUMI 経営組織論 / イノベーション 教授

知念 肇 Hajime CHINEN 流通論 / ロジスティクス論 教授

野口 浩 Hiroshi NOGUCHI 税法 教授

橋本 俊作 Shunsaku HASHIMOTO キャリア論 / サービスマネジメント論 教授

王 怡人 Yi Jen WANG マーケティング論 教授

桑原 浩 Hiroshi KUWAHARA 観光経営 教授

桑原 和典 Kazunori KUWAHARA ファイナンス論 / 財務管理論 教授

多賀 寿史 Hisashi TAGA 簿記原理 准教授

井川 浩輔 Kosuke IGAWA 人的資源管理論 准教授

宮国 薫子 Kaoruko MIYAKUNI 観光経営 / 持続可能な観光開発 准教授

福井 真司 Shinji FUKUI 管理会計論 講師

石川 徹 Toru ISHIKAWA 会計学 講師



宮城 芽依さん（観光産業科学部 産業経営学科 4年生）

産業経営学科（現：「経営プログラム」）では、4年間を通して多くの貴重な経験をしました。ハワイへの海外研修や学 P リーグに参加できたことは、私にとってかけがえない学びです。また、プログラム長の橋本先生やゼミでお世話になっている宮国先生をはじめとして、先生方に背中を押してもらえることも多く、安心して勉学に励むことができました。経営プログラムには成長できる環境があるので、後輩の皆さんも仲間と切磋琢磨しながら、ぜひ多くのことに挑戦してほしいです。

経済学プログラム

Economics Program

経済が社会に対して大きな影響を与え時代を変えつつある中で、社会の現状を理解し、その変化の方向性を推測し、あるいは働きかけていく上で、経済学を学び、そこから得られた知見を基に判断し行動することの重要性が増しています。経済学プログラムでは、基礎的な内容から応用理論に至るまで、歴史（経済史）や政策（社会政策、経済政策など）も踏まえながら、経済について幅広く学べるような授業を提供しています。また、情報処理や実践経済学、実地体験などの社会に出た上で役に立つスキルや実践力の習得にも力を入れています。もちろん、新学部の再編により、開講される専門科目の多少の変動はありますが、学べる専門内容は、旧法文学部経済学専攻課程から継承されています。

日本経済史・准教授
星野 高德



近年、地域産業の衰退や非正規雇用の増加などの問題に直面する中、地域の特徴を生かした地域復興や産業の育成などが話題に上るようになり、各地域を取り巻く環境も大きく変わりつつあります。経済学プログラムでは、学部共通基盤専門科目からプログラム専門科目において、基礎科目や応用科目、ゼミ（演習）を順次性・体系的をもって提供し、経済学の基礎から応用へと体系的に学べるカリキュラムを提供するとともに、経済史などの科目を通じて現代と過去の比較、他地域との比較を意識した教育も行っています。今後、現在抱えている社会問題の背景や各地域の発展の方向性を考えていく上で、体系的な経済学の知識や幅広い教養を得ることは大きな力になると思います。幅広い問題関心を持つ学生の皆さんと一緒に学べることを楽しみにしています。

教員紹介

大城 郁寛 Ikuhiro OSHIRO 理論経済学 教授

李 好根 Hokeun Yi 金融論 教授

越野 泰成 Yasunari KOSHINO ミクロ経済学 教授

瀬口 浩一 Koichi OSOGUCHI 財政学 教授

石田 一之 Kazuyuki ISHIDA 経済政策 准教授

岩橋 培樹 Roki IWAHASHI 経済政策 教授

杉田 勝弘 Katsuhiko SUGITA 計量経済学 教授

高岡 慎 Makoto TAKAOKA 計量経済学 准教授

堀 勝彦 Katsuhiko HORI マクロ経済学 准教授

石田 三成 Mitsunari ISHIDA 財政学 准教授

徳島 武 Takeshi TOKUSHIMA 国際経済学 教授

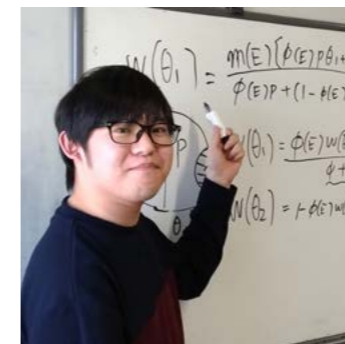
高畑 明尚 Akihisa TAKAHATA 社会政策 教授

宮田 亮 Ryo MIYATA 金融論 准教授

星野 高德 Takanori HOSHINO 日本経済史 准教授

清水 政行 Masayuki SHIMIZU 開発経済学 准教授

西 圭介 Keisuke NISHI 西洋経済史 講師



伊集 盛裕さん（法文学部 経済学専攻4年生）

経済学を専攻したことで、最近の社会問題についてその焦点や歴史的背景がより深く理解できるようになりました。また、経済学は色々な面において実用的であり、最初の基礎の段階ではとっつきにくい部分があるかもしれませんが、学ぶほどに面白く有益な学問だと思います。ゼミでは教育を経済学的観点から考え、議論しています。一口に経済学といっても様々なテーマがあり、どれも興味深く目移りする学問だと感じています。

国際言語文化プログラム

Global Languages and Cultures Program

国際言語文化プログラムは、英米、ドイツ、フランス、スペイン語圏（南米）の言語、文学、文化を包括的かつ専門的に学びたい学生や、日本語や日本事情について学びたい外国人留学生のためのプログラムです。本プログラムの学生は、言語、文学、文化の専門的な授業や、ネイティブ・スピーカーの先生による授業、留学生との交流、そして英語圏やヨーロッパ（または南米）での研修などを通して、高度な外国語運用能力の獲得をめざします。英語には、昼間主コースのほか、社会人や働く学生も学ぶことができる夜間主コースもあります。また、本プログラムは、沖縄で唯一、ドイツ・フランス・スペイン語圏の言語、文学、文化について専門的に学ぶことができるプログラムでもあります。自分の選んだ言語の習得を通して、その文化や社会を深く知り、世界の人々と自由自在に対話する力を獲得できたら、それまで遠いと思っていた「世界」は案外あなたの身近にあることを実感できるでしょう。

高良 宣孝

談話研究 / 非言語コミュニケーション 准教授



世界共通語としての地位を確立している英語。では、イギリス人とアメリカ人の話す英語は同じなのか。インドやシンガポールの人々の話す英語はイギリス・アメリカの人々の話す英語と比べて何が違うのか。私が担当する「英語の多様性と文化」では、様々な言語や文化の影響を受けている「世界各地で話されている英語」を「World Englishes」として捉え、それらの英語の発音・文法・語彙について考えていきます。

教員紹介

< 英語系 >

石原 昌英 Masahide ISHIHARA 社会言語学 / 言語政策 教授
兼本 円 Madoka KANEMOTO 異文化コミュニケーション 教授
宮平 勝行 Katsuyuki MIYAHIRA コミュニケーション論 教授
石川 隆士 Ryuji ISHIKAWA 英文学 教授
吉本 靖 Yasushi YOSHIMOTO 言語学 教授
金城 克哉 Katsuya KINJYO 言語学 教授
東矢 光代 Mitsuyo TOYA 応用言語学 / 英語教育 教授
豊島 麗子 Reiko TOYOSHIMA イギリス文学 教授
山城 新 Shin YAMASHIRO アメリカ文学 教授
喜納 育江 Ikue KINA アメリカ文学 / ジェンダー研究 教授
金城 尚美 Naomi KINJYO 日本語教育 教授
島袋 盛世 Moriyoshi SHIMABUKURO 比較言語学 教授
加瀬 保子 Yasuko KASE アメリカ文学 准教授
クリストファー・デイビス Christopher DAVIS 言語学 / 形式意味論 / 琉球語 准教授
呉屋 英樹 Hideki GOYA 応用言語学 / 第2言語習得論 / 英語教育 准教授
高良 宣孝 Nobutaka TAKARA 談話研究 / 非言語コミュニケーション 准教授
山里 絹子 Kinuko YAMAZATO アメリカ研究 准教授
長堂まどか Madoka NAGADO イギリス文学 講師
金藤多美子 Tamiko KONDO 英語教育 / 英語教員研修 / アクションリサーチ 講師

< ヨーロッパ言語系 >

ティル・ヴェーバー Till WEBER ドイツ文化 教授
西森 和広 Kazuhiro NISHIMORI フランス文学 教授
鈴木 正士 Masashi SUZUKI スペイン文学 教授
宮里 厚子 Atsuko MIYAZATO フランス文学 准教授
フランク・デルバル Francck DELBARRE フランス語学 准教授
酒井 アルベルト 清 Albert Kiyoshi SAKAI スペイン言語文化 准教授
野間 砂理 Sari NOMA ドイツ語学 講師
福地 恭子 Kyoko FUKUCHI スペイン文学 講師



金城 圭吾 さん (英語文化専攻 卒業生)

私はアメリカのマイノリティ文学を勉強して、「真実」を明らかにするためには、多数派だけでなく少数派の「声」も拾うことが重要だと知り、それが報道の仕事へと進むきっかけとなりました。しかし、文学を通して「批判的思考」や「想像力」を養うことは、就職活動を成功させるだけでなく、人生をより良い方向へ導いてくれると思っています。

地域文化科学プログラム

Geography, History and Anthropology Program

地域文化科学プログラムでは「人間」について、空間、時間、文化とのかかわりから学ぶことができます。ただし単なる理論だけでなく、古文書や図像などの史料解読を通して、さらに巡検や現地調査・発掘、聞き取り・参与観察などのフィールドワークを通して学べるプログラムです。また GIS などの地図に関するスキルも身につけることができます。本プログラムは複雑・緊密化する世界を地理学、歴史学、文化人類学の最新の研究成果をもとに、総合的に理解することを目指しています。史料に親しみ、フィールドに出かけ、人類が培った我々へのメッセージ、現代に生きる人々の多様な暮らし方、さらにそれらが置かれた環境などについて考えて行きませんか。

人文地理学／島嶼研究／人口移動研究・教授
宮内 久光



地域文化科学プログラムは、歴史学、地理学、社会人類学、考古学、民俗学、という関連性の高い 5 つの学問分野で構成されています。高校生の皆さんにとって、社会人類学や考古学、民俗学は高校まで学んでいない分野なので、新鮮な感じがすると思います。実際、これらの分野を専攻した学生の多くは、学んでよかったと満足感が高いです。その一方、歴史や地理は小学校から学んでおり、大学に入ってまで人物や地名を覚えなければならないのか、といった今更感を持っている人が多いことでしょう。でも、大学で学ぶ歴史学や地理学は、高校までの学習を基礎としながら、歴史的事象や地理的事象に関して、問題意識を持ち、自分で「問い」を立て、自分で史料読解や野外調査をしながら多面的・多角的に考察して「答え」を導く、という他分野同様に知的でアカデミックな学問分野です。私は地理学を担当しており、移民現象が研究テーマの一つです。沖縄移民とバスク移民の比較研究や、クウェートで働くフィリピン人看護師に関する研究など、グローバルな時代の越境的な人の動きの特徴を、現地調査もしながら考えています。



赤嶺佳帆さん (地理歴史人類学専攻課程 3 年生)

地域文化科学プログラムでは、「人間」について、空間、時間、文化とのかかわりから学ぶことができます。歴史学、地理学、人類学の 3 つの視点から、フィールドワークや史料解読を通して学んでいきます。私は、地域文化科学プログラムの前身となる法文学部人間科学科地理歴史人類学専攻の西洋近現代史ゼミに所属しています。私が専攻する歴史学では、古文書や英語の文献を読んだり、概説書の読み込みとそれに関する考察の議論を行ったりしています。西洋近現代史ゼミでは、「沖縄のなかの世界史発掘プロジェクト」という共同研究を行なっています。共同研究では、沖縄県内でフィールドワークを行なっています。私は現在、卒業論文のテーマとして、1950 年以降のアメリカにおけるフェミニズム運動とレスピアンとの関係について研究したいと考えています。史料解読を通して、自分で学び考える歴史学の面白さを体験してみませんか。

教員紹介

宮内 久光 Hisamitsu MIYAUCHI 人文地理学 / 島嶼研究 / 人口移動研究 教授

廣瀬 孝 Takashi HIROSE 自然地理学 / 水文地形学 教授

羽田 麻美 Asami HADA 自然地理学 / カルスト地形学 准教授

長部 悦弘 Yoshihiro OSABE 東洋史 教授

宮城 徹 Toru MIYAGI 西洋中世史 / 中世イギリス史 教授

武井 弘一 Koichi TAKEI 日本近世史 / 歴史教育 准教授

池上 大祐 Daisuke IKEGAMI 西洋近現代史 / アメリカ現代史 准教授

池田 榮史 Yoshifumi IKEDA 考古学 / 博物館学 教授

萩原 左人 Sahito HAGIHARA 民俗学 教授

稲村 務 Tsutomu INAMURA 社会人類学 / 文化人類学 / アジア少数民族研究 教授

後藤 雅彦 Masahiko GOTO 考古学 / 博物館学 准教授

神谷 智昭 Tomoaki KAMIYA 社会人類学 / 文化人類学 准教授

国際地域創造学科のカリキュラム構成

現観光産業科学部・法文学部卒業生の主な就職先



- 製造業**：オキコ(株)、オリオンビール(株)、サントリーフーズ沖縄(株)、タカラスタンダード(株)、ホシザキ沖縄(株)、沖縄コカ・コーラボトリング(株)、(株)パラダイスプラン、(株)伊藤園、(株)近代美術、(株)東京玉子本舗、凸版印刷(株)、南島酒販(株)
- 建設業**：(株)エプコ、(株)國場組、SCSK(株)、(株)ビクトリー、(株)七呂建設
- 電気・ガス・熱供給・水道業**：エッカ石油(株)、(株)マーケティングアプリケーションズ
- 情報通信業**（電気通信、放送、IT、新聞、出版、映像・音声・文字情報製作等）：沖縄セルラー電話(株)、テレビ佐世保、沖縄テレビ放送(株)、(株)いえらぶ琉球、(株)りゅうせきビジネスサービス、(株)沖縄タイムス社、(株)沖縄富士通システムエンジニアリング、(株)国際システム、(株)琉球新報社、西日本電信電話(株)、全研本社(株)、代官山スタジオ、日本電気(株)、日本放送協会、琉球 Software(株)、琉球放送(株)
- 運輸業、郵便業**（鉄道、道路旅客、貨物運送、水運、航空運輸 等） ※郵便局を除く：ANA 沖縄空港(株)、JAL スカイエアポート沖縄(株)、沖縄ヤマト運輸(株)、全日本空輸(株)、日鉄住金物流鹿島(株)、日本トランスオーシャン航空(株)、日本交通(株)、日本航空(株)
- 金融業、保険業**：あいおいニッセイ同和損害保険(株)、コザ信用金庫、シティバンク、チューリッヒ保険会社、沖縄県労働金庫、沖縄振興開発金融公庫、(株)アイギス沖縄、(株)ゆうちょ銀行、(株)沖縄銀行、(株)琉球銀行、全国労働者共済生活協同組合連合、損保ジャパン日本興亜、第一生命保険(株)、野村證券(株)
- サービス業**：税理士事務所、一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー、コクワ流通サービスカンパニー、セコム琉球(株)、トランスコスモス(株)、ハイアットリージェンシー那覇沖縄、ヒルトン沖縄北谷リゾート、沖縄ツーリスト(株)、沖縄ワタベウェディング、楽天(株)、(株)JTB 沖縄、(株)オンデーズ、(株)かりゆし、(株)ロワジュール・ホテルズ沖縄、(株)琉球バス交通、(株)琉球ホテルリゾートオクマ、資生堂ジャパン(株)、全保連(株)、富士急行(株)、オリックス・ビジネスセンター沖縄(株)
- 卸売業、小売業**：沖縄サントリー(株)、沖縄県観光事業協同組合、(株)サンエー、(株)セブンイレブンジャパン、(株)メガネスーパー、(株)ヤマノホールディングス、(株)リウボウインダストリー、(株)三松、(株)比屋根建材販売、(株)良品計画、(株)スズキ自販沖縄
- 不動産業**：(株)浜里不動産、那覇空港ビルディング(株)、(株)エステート白馬、三和エステイト(株)
- 公務**：国税局、裁判所、税関、警察、国土交通省、労働基準監督署、沖縄県庁、市役所・役場、長崎県立埋蔵文化財センター、沖縄防衛局、沖縄総合事務局、沖縄市立図書館、沖縄労働局、沖縄県公文書館、東京消防庁
- 教育関係**：各種中学校、高等学校、特別支援学校、専門学校、青少年サポートセンター、沖縄女子短期大学附属図書館、進学塾 ZEUS、個別指導 Axis、(株)富士通ラーニングメディア沖縄
- 医療・福祉**：バリアフリーネットワーク会議、(株)ニチイ学館、(株)ニライハート、(株)琉球光和、社会福祉法人伸こう福祉会、青少年福祉センター、北九州福祉事業団、和歌山県国民健康保険団体連合会